

2024 ASIAN ROWING CHAMPIONSHIPS

Report 3 (10/8)

10月8日(火)

本日も会場オープン時の情報では、レンタルボートはまだ届いていないとのことでしたが、選手たちは落ち着いて状況を受け止め、各自で軽く体を動かし調整を行いました。

地元ウズベキスタンや別途ボートを手配していた数か国は水上練習を行っていましたが、それ以外のほとんどの国は我が国と同じ状況で、オールの調整や陸上トレーニングを行って行っていました。



水上でのトレーニングができないため、本日もエルゴメーター等での調整となりましたが、集中力を切らさずトレーニングを行う選手たち。

26台用意されている会場のエルゴメーターも順番待ちの状態の中です。写真右端が中溝選手(NTT東日本)ですが順番待ちの他国の選手が後ろに並んでいます。



会場から徒歩300m程度の場所に立地する宿泊場所のSavitsky Plaza Hotel。



ホテルの窓からはボートコースと会場(右端)が一望できます。また、空気が乾燥しているため洗濯ものも良く乾きます(特に海外遠征ではとても重要なことです)。

17:00に緊急のチームマネージャーミーティングがおこなわれ、レンタルボートは本日中には到着する見込みだが夜間になるだろうということや、現在水上トレーニングができていない国が大半のため、日中の一部の時間帯で予定されていたコースの閉鎖を中止し、できるだけ長く水上トレーニングができるようなアナウンスがありました。

明日は、ボートのセッティングと調整でかなり慌ただしくなる見込みですが、チーム一丸となって準備を進めてまいります。



シルクロードの丘をバックにはためくアジア選手権参加国の国旗。



ポートコース沿いのホテル群と空港を結ぶシャトルバスにも SILK ROAD SAMARKAND の文字が。シルクロードの要衝として栄えた伝統と誇りを色々な面で感じることができます。

追伸：

この2日間、これまでお伝えしてきました通り、レンタルボートが会場に届かないというアクシデントにより、日本を含めた大半の国の選手達が水上トレーニングができない状況となっております。

このアクシデントには様々な要因があるかもしれませんが、現地のスタッフがこの状況に彼ら自身も戸惑いつつも、各国からの問い合わせや要望に対し心を込めて必死に対応しようとしている様子が随所で見るすることができます。

その姿から、このRowingというスポーツで国際規模の大きな大会がほとんど行われていない国における大いなるチャレンジ精神と、アクシデントに見舞われつつもそのチャレンジを必ず成功させようとする、Rowingというスポーツで育った現地のスタッフたちの姿勢が、逆に私たちにも大会の成功に向け自分たちのできることをしっかりやっという気持ちにさせてくれております。このような思いにさせてくれる開催地ウズベキスタンのRowing Family に対する、アジア選手権日本代表チームの感謝と敬意をご理解いただければ幸いです。